



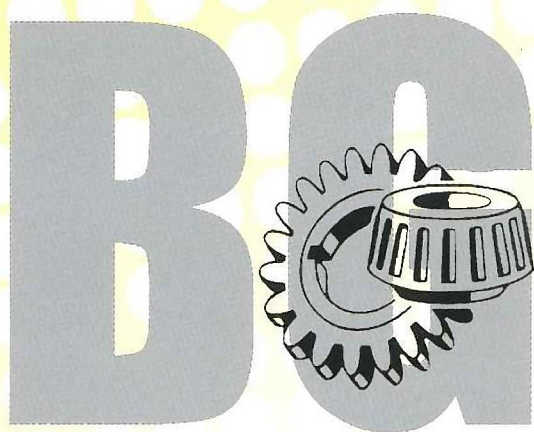
# BG Products

世界80ヶ国以上で、今最も売れている添加剤

## BG ディーゼルケア

### ディーゼル車の新しい整備法！

ディーゼル車のトラブルをBG製品が解決します！！



## BG 燃料ライン洗浄 (ディーゼルケア・インジェクションクリーニング)



約 50cm



※燃料タンクの送りのホースと戻りのホースを外して専用器具に接続



フィルターをセット



フィルターにも黒い汚れがついています



専用フィルター  
1台毎に交換

## 燃料ライン洗浄剤 < BG22932 / BG23232 >

### インジェクターの詰まりを解消 BG22932 (DIESEL CARE)

[BG22932 使用方法]

1BOX～2t クラスには半分～1本、  
4t～大型クラスには1～2本使用します。



<使用間隔>

■ 専用器具を使った燃料ライン洗浄は1～2年に1回、或は10万～20万kmに1回 (BG23232で定期ケアしている場合)

### BG 製品の中でも最強クラスを誇るクリーナー BG23232 (DFC PLUS HP)

[BG23232 使用方法]

1BOX～2t クラスには半分～1本、  
4t～大型クラスには1～2本使用します。

※専用器具での洗浄後は、必ず燃料タンクにも  
投入してください。(目安: 100ℓに1本)



## BG 燃料ライン洗浄後の定期的なケア (新車時も同様)

### BG23232 (DFC PLUS HP)

- ・燃料ラインを洗浄し、汚れの再付着を防止して燃費の回復効果があります。
- 使用間隔: 15,000km～20,000km 毎、  
または3～4ヶ月毎 (早い方)
- 使用方法: 燃料タンク容量 100ℓ 毎に1本投入してください。
- ※燃料のつぎ足し給油を考慮して製品記載の割合よりも  
2～3倍量の投入を推奨しています。
- ※燃料の凍結防止剤を配合 (1本で946ℓの燃料に効果があります)

### BG2256 (177ml)

- ・燃料ラインを洗浄し、燃費回復に効果があります。
- 使用間隔: 1～3ヶ月毎
- 使用方法: 燃料タンク容量 100ℓ 毎に1本投入してください。
- ※燃料ラインが原因の急な白煙止め目的に使用する場合は、  
適正に投入後、30分程度試走してください。





# DPF相談所



明確にお答えします

解決いたします

DPF解決を  
まじめに10年以上  
やってきた自信が  
あります

**DFCプラス HP**  
(製品番号:BG23232) 946ml  
BGジャパン(株)

## 結論 外さず、取り換えず、約8~9割直ります。

DPFは新品への交換、リビルト品への交換、丸洗い洗浄すれば、きれいになります。しかし、作業に手間がかかり、高額になります。車両の稼働率も下がります。



燃料タンクに入れるだけで直る実績がありますからまずやってみませんか？

## 結論 直らない場合の理由もわかります。★対策もあります。

✗ 直らない理由の一つは、DPF関連部品の部品故障です。(排気バルブのスロットル故障、EGRの固着、差圧センサーの詰り、差圧センサーの故障、排気温度センサーの故障、インジェクターの故障など)

✗ 直らないもう一つの理由は、アッシュ(石灰成分)が詰まっている場合です。

しかし、

⇒壊れている部品の交換やDPF洗浄で対応可能です。  
⇒その結果、DPF機能が回復します。



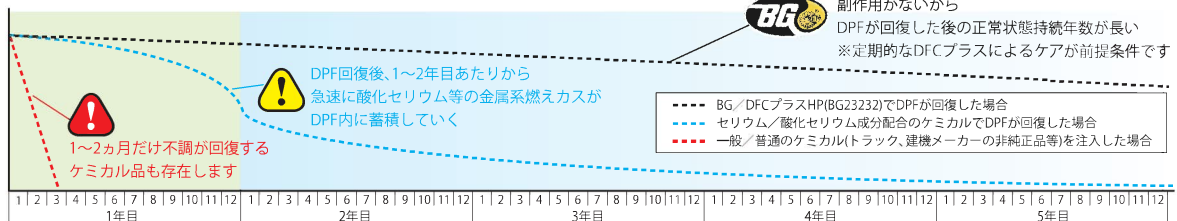
## 結論 DPFへの副作用がありません。

本製品は、ただ単にPM(スス)の燃える温度を下げる酸化セリウムや酸化鉄などの金属系成分を一切使用しておりません。そのため、セリウムや酸化鉄の燃えカスがDPF内に蓄積してDPFの寿命を縮めるような副作用が全くありません。また、セリウムは、環境汚染や人体への影響から、欧米では使用禁止の動きが活発化しています。本製品はDPF詰りの原因からゆっくり解決しますので、とても安全です。



## 結論 DPF回復後の正常状態持続率が長いです。

■ケミカル品によってDPFが回復した後の「正常状態持続時間」比較 ※BGデータ



## 世界的に長く信頼されている会社の製品です。

本製品は、日本のトラックメーカーや建機メーカーの純正指定品にも多くご採用いただいております。また、大阪市や東京消防庁や大手運送会社等でも広く純正指定品としてご採用いただいております。当然のことながら、各社様の数年間に渡る厳しい実験や効果測定等のテストを合格しております。アメリカでは、大統領警護車両、国防省(陸海空軍、海兵隊)、消防、警察などのディーゼル車両の純正指定を受け、長年にわたってご使用いただいております。ここまで信頼されているケミカル品が、ほかにいくつあるでしょうか？



〈国防省〉



〈大統領警護〉



〈FBI〉



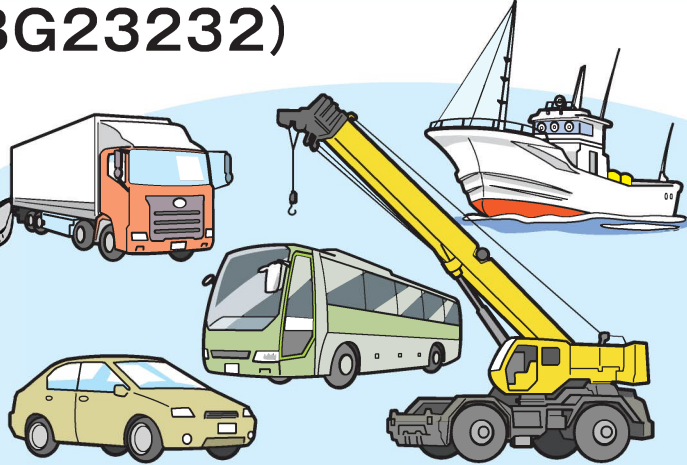
〈東京消防庁〉



〈大阪市〉



# DFCプラスHP使い方 (BG23232)



DPF相談所

ディーゼルエンジンにはコレ!!

## 判断

### DPF不調の始まりの判断

トラックやバスは、新車（または正常な車両の場合）でも月に1～2回、DPF内にたまったススを燃やすために、強制再生（燃焼）を約20分行います。運転席のDPFチェックランプが点滅し、停車して、それから強制再生（燃焼）がスタートします。このチェックランプの点滅頻度が増えたり、強制再生（燃焼）の時間が長くなってきたら、「不調」であると疑って下さい。

## 原因

### DPFの強制再生（燃焼）の時間と回数が増える原因

DPF内にある程度ススがたまると、センサーが感知してススを燃やすための燃焼装置のスイッチが入ります。通常、ススは500～600℃まで加熱されると燃えて消えていきます。しかしインジェクターが汚れている車両は、理想の燃焼状態にならず、ススの燃焼装置の温度が300～400℃位にしかありません。その結果、燃え残ったススがどんどんDPF内にたまり、強制再生（燃焼）の時間と回数が増えていきます。

## 理由

### DFCプラスHPを入れる事で問題が改善される理由

この製品を燃料タンクに注入することにより、インジェクターにこびりついた汚れを少しずつゆっくりと溶かして燃やしていきます。結果、エンジンが理想の燃焼状態に戻り、DPFの強制再生（燃焼）時の温度もしっかりと500～600℃に上がります。そしてDPF内にたまっていったススがどんどん燃えて消えてなくなります。そのため、DPF内に対して副作用や異物を残さない方式なのです。8～9割位の確率で、DPFの状態をほぼ新車のレベルに戻っていきます。

## 使い方

### DFCプラスHPの使い方

使い方は軽油燃料タンクに入れるだけです。ご使用にあたり、注入前後の燃料フィルター交換やオイル交換は特に必要ありません。多少多く注入しても、エンジンに影響はありません。洗浄力は弱く作っており、ゆっくり洗浄するタイプなので安全です。そのため、燃料タンクの中の軽油残量が少なくても問題ありませんが、満タン状態だと洗浄作用が長く続きますので経済的です。（3～6ヶ月毎の添加を推奨しています）注入後のかくはんも不要ですが、お時間があれば10分程度アイドリングしていただくと、直りが少し早くなります。



## 用量

### DFCプラスHPの用量

下記用量はだいたいの目安です。ボトルの側面にわかりやすい目盛りが付いています。

- 軽油 約50ℓに対し1/2本添加  
（デミオ、CX5、ハイエース、キャラバン、ボンゴ等）
- 軽油 約70～200ℓに対し1本（946ml）添加（2t、4t車）
- 軽油 約200～400ℓに対し1～2本を添加（10t、大型車）

※上記のほか、DFCプラスHPは、建機、船舶、発電機、コンプレッサーなど、軽油燃料を使用する全てのディーゼル・エンジンにご使用になれます。

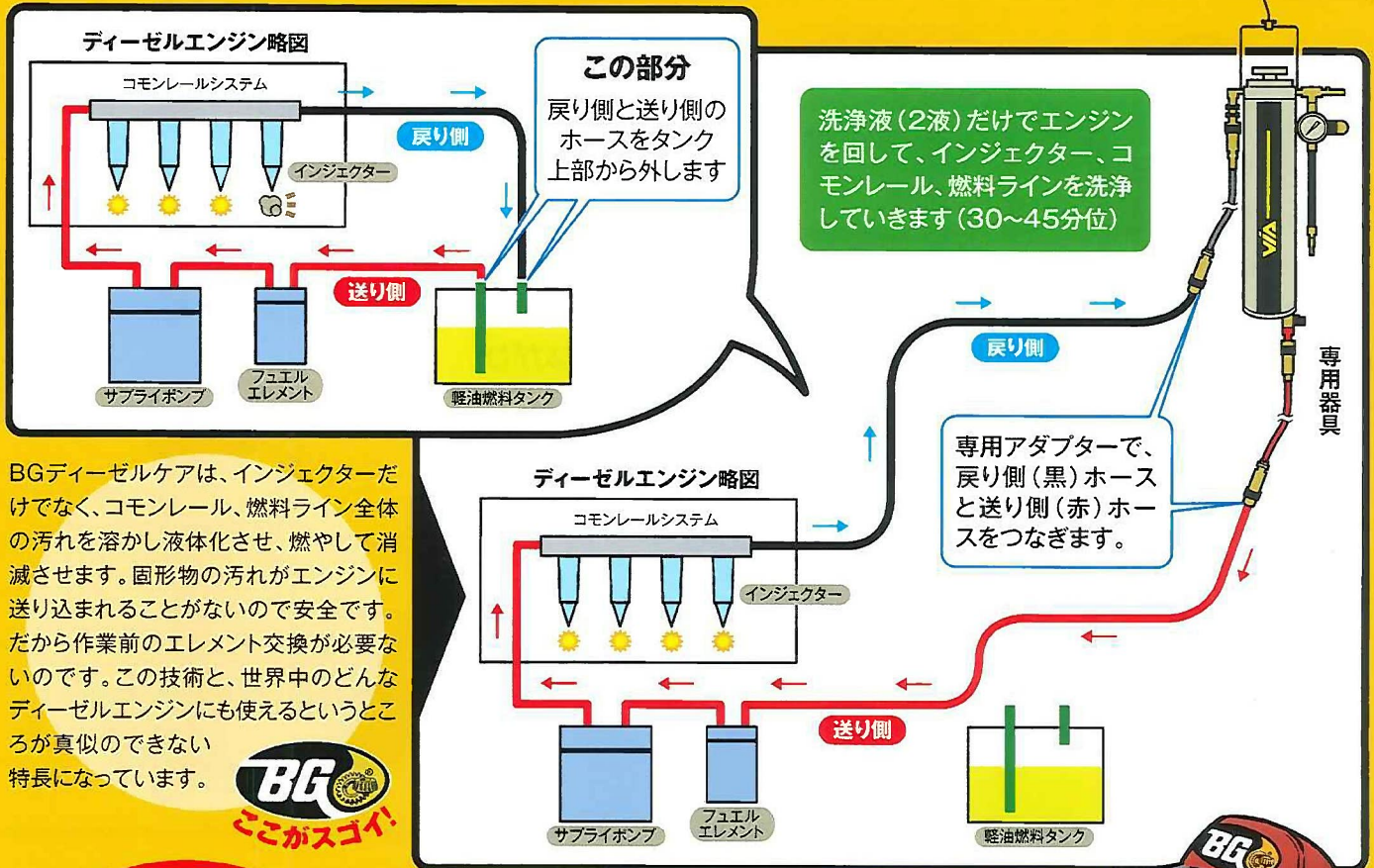
お問合せ



# BGディーゼルケアのしくみ

(専用器具によるインジェクター、燃料ライン洗浄)

大手トラックメーカー  
大手建機メーカー  
純正・整備指定品です



BGディーゼルケアは、インジェクターだけでなく、コモンレール、燃料ライン全体の汚れを溶かし液体化させ、燃やして消滅させます。固形物の汚れがエンジンに送り込まれることがないので安全です。だから作業前のエレメント交換が必要ないのです。この技術と、世界中のどんなディーゼルエンジンにも使えるというところが真似のできない特長になっています。



インジェクターや燃料ラインがきれいになると

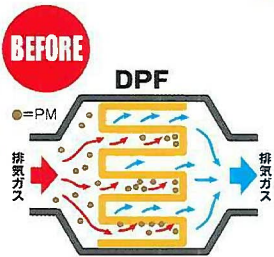
分解洗浄せずに、DPFの調子がどんどん良くなっていきます。

え! 本当に!?



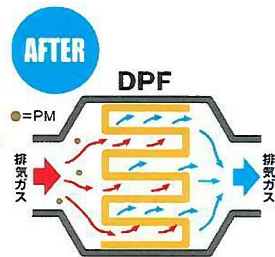
BGジャパン(株)  
イメージキャラクター「ナオルコ」

その理由は...



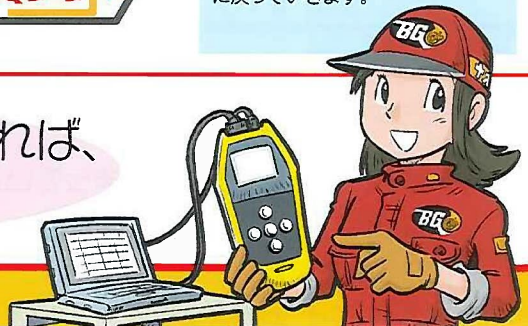
BGディーゼルケアをすると

インジェクターが汚れていて不調の時は、エンジンの燃焼温度が下がっています。そのためDPF再生動作時の燃焼温度が350~400℃位にしか上がらず、PM(スス)を燃焼できません。これではPM(スス)はDPF内に蓄積するばかりです。



エンジン内の燃焼温度が正常に戻り、DPF再生動作時の燃焼温度が500~600℃位に戻り、溜まっていたPM(スス)がどんどん燃焼されます。そしてDPFの強制再生(燃焼)の回数と再生時間が、新車並みに戻っています。

BG製品は、診断機(ダイアグ)と併用すれば、細かく診断、経過測定等が可能です。



## 整備革命

BGジャパン(株)

BGジャパン・ホームページでBGディーゼルケアの動画をご覧いただけます。





# BGからのご提案



**1** ケミカルと診断機を上手に使い、病院のように診断から施術と経過観察までトータルケアすることができます。



### 整備工場

- ① 診断
- ② 整備計画
- ③ 施工
- ④ 経過観察

=  
=  
=  
=

### 病院

- ① 問診、検査
- ② 施術、処方計画
- ③ 施術、投薬処方
- ④ 経過観察



**2** トータルケアにより、顧客満足度と商売繁盛につながり、整備士が地域のかかりつけ医の役割を果たします。

作業効率  
UP!

利益  
UP!

顧客満足度  
UP!



+



=



**3** 施工前、施工1週間後に診断機で数値を見て下さい。  
[DPFの差圧/DPF再生動作時の燃焼温度/インジェクター噴射量補正值等々]

項目名(P-216)	現在値	単位	項目名(P-216)	現在値	単位
機関油圧(オイルプレッシャー)	17	℃	機関油温(SCR触媒直下)	23	℃
機関油圧(ターボチャージャー)	18	℃	機関油温(ターボチャージャー)	13	℃
SCR触媒入口温度	21	℃	機関油温(ターボチャージャー)	16	℃
機関油圧(ターボチャージャー)	12	℃	機関油温	14	℃
機関油温(DPF前)	32	℃	冷却水温	20	℃
機関油温(DPF後)	32	℃	ターボ圧	10.2	kPa
機関油温(SCR触媒直下)	90	℃	ターボ圧(補正)	0.8	kPa
機関油温(SCR触媒直上)	19	℃	ターボ圧(補正)	1.3	kPa
			ターボ圧(補正)	1.3	kPa
			ターボ圧(補正)	2000	kPa

DPFの差圧  
を見ています

項目名(P-216)	現在値	単位	項目名(P-216)	現在値	単位
機関油圧(SCR触媒直下)	23	℃	機関油温(ターボチャージャー)	16	℃
機関油温(ターボチャージャー)	13	℃	機関油温	14	℃
機関油温(ターボチャージャー)	16	℃	冷却水温	20	℃
機関油温	14	℃	ターボ圧	10.2	kPa
冷却水温	20	℃	ターボ圧(補正)	0.8	kPa
ターボ圧	10.2	kPa	ターボ圧(補正)	1.3	kPa
ターボ圧(補正)	0.8	kPa	ターボ圧(補正)	1.3	kPa
ターボ圧(補正)	1.3	kPa	ターボ圧(補正)	1.3	kPa
ターボ圧(補正)	1.3	kPa	ターボ圧(補正)	2000	kPa

インジェクターの  
噴射量を見ています

DPFの再生時の  
燃焼温度を  
見ています



**4** ディーゼルケアをしても直らない場合、考えられること…

- ・ DPF内がアッシュで詰まっている
- ・ 排気バルブのスロットル故障
- ・ EGRの固着
- ・ 差圧パイプの詰まり
- ・ 差圧センサーの故障
- ・ 排気温度センサーの故障
- ・ インジェクターの故障



〈お問合せは〉

